

本セッションでは、降雨時流出等 6 件の発表が行われた。

6 件のうち降雨時流出に関するものが 4 件あり、その中身は道路粉塵、濁水、大腸菌および重金属に関する流出で河川上流域から下水道関連まで多岐にわたっていた。残り 2 件は、水中の鉄結合容量と希土類分布に関するものであった。

2-A-10-4 は、生物利用性の高い  $\text{Fe}^{2+}$  について有機リガンドの鉄結合性について明らかにしようとしたものである。河川水および下水処理水には Fe より有機リガンドが過剰に存在することが明らかになった。

2-A11-1 は、都市域のノンポイント汚染源の主要な位置を占める道路排水について、道路粉塵の粒径分布およびその C、N、P について検討したものである。C、N、P とも細かい粒子に多く吸着していることが分かった。特に夏季の降雨時に溶存態として流出することが示唆されている。

2-A-11-2 は、近年の異常気象に伴う集中豪雨時の濁水流出の早期検出に関する研究であり、濁度分散出現回数等が河川上流域の土砂流出の早期検出に役立つ可能性を示唆しており今後の研究の進捗が期待される。

2-A-11-3 は、合流式下水道の降雨時越流水 (CSO) の東京湾への影響を大腸菌、大腸菌群および DOC、アンモニア態窒素、懸濁物質を用いて検討したものである。今回の調査では CSO は表層水に影響を与えており、大腸菌・大腸菌群と溶存物質では流出にタイムラグが観察された。すなわち溶存物質が大腸菌より遅れて流出することが分かった。

2-A-11-4 は、人間活動に伴って排出されるアンチモン (Sb) と鉛 (Pb) の降水中の起源について検討したものである。降水中の Sb と Pb は Enrichment Factor から人為汚染であることが確認された。その起源について Sb は土壌由来が 10% 未満であったが、Pb は市街地に近づくほど表層土壌の寄与が大きくなった。

2-A-12-1 は、最近エレクトロニクス製品などの材料として広く利用されている希土類元素について特に MRI 造影剤に使われている Gd の河川水中濃度変化について検討したものである。希土類の大部分は懸濁態として存在していることが明らかになった。Gd は病院排水の影響が考えられる地点で高濃度になった。

(滋賀県大 永淵 修)